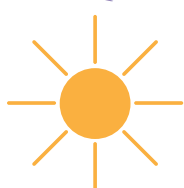


十和田風力開発株式会社がお届けする

# 風のおたより

2025年11月

Vol.5



## 今回の内容

- ①テーマ関係者による座談会 …………… P.2,3,4  
『観光資源と地域活性化』  
～馬産地 十和田市の発展追求～
- ②(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業概要 …………… P.4

## ごあいさつ

(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業の事業地である十和田市にお住いの皆さんへ向けて、『風のおたより』をお届けいたします。

本おたよりでは、地球温暖化や再生可能エネルギー、(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業の背景について取り上げるほか、これまで寄せられた懸念やご質問に対する事業者の取り組みや方針についてもお伝えしてまいります。座談会では、各号のテーマに関係する方をお招きし、テーマに即した情報

をお届けいたします。

なお、現在検討中の事業計画につきましては、今後実施予定の第4回中間報告会(時期未定)にて詳しく報告させていただきます。また、本おたよりの内容に関するご感想やご意見は、裏面に記載の弊社HP内にある「お問い合わせフォーム」へお寄せいただけますと幸いです。

いただいたご意見は、次回以降のおたよりや今後の報告会の参考とさせていただきます。



# 『観光資源と地域活性化』 ～ 馬産地 十和田市の発展追求 ～

## 今回参加いただいた皆様

- ・上村 鮎子さん  
(有限会社 十和田乗馬倶楽部 代表取締役社長)
- ・下山 沙織さん  
(十和田シティホテル マネージャー)



**司会** 本日は『観光資源と地域活性化』をテーマに、十和田地域の観光業界の一翼を担う皆様にご出席いただき、お話を伺います。

この対談を通じて、地域の現状や課題等を確認し、併せて風力発電事業との共存の可能性を探って参りたいと思います。

はじめに、昨今、猛暑や豪雨などの異常気象が多くなっていると感じておりますが、皆様は十和田市に住まわれている中で、どのように感じておられますか。

## 活動時間等が限られてきた

**上村** 地球温暖化で気温は高くなり、夏は猛暑ということで外に出ちゃいけないという傾向にある。十和田市のような地域では冬も豪雪で外に出にくくなります。これらを観光事業として考えると、活動する時間・期間が限られてきたかなと思っています。そうすると、地域の経済効果って、将来的にはちょっと苦しくなるんじゃないかと心配ですね。

**下山** うちの宿泊施設なので、観光に来られた方が泊まること多いんですね。十和田市の魅力って現代美術

館はありますけど、やっぱり奥入瀬渓流や十和田湖、八甲田を見に来るお客様が多いです。ただ、これらの観光地は、どうしても天候に左右されるじゃないですか。この間の、十和田湖方面の豪雨の折でも、結局、十和田湖畔を抜けて秋田に行く予定だったお客様が行けなくなったので、うちに泊まりにいらっしゃいました。こういった面でも、異常気象っていうのは観光業に直接的に関係あるのかなと思います。

**司会** 近年、異常気象の原因として地球温暖化が指摘されています。その要因の一つが温室効果ガスとされ、主に二酸化炭素です。私たちが使用する電気の多くは火力発電によって作られていますが、この過程で化石燃料を燃焼し、大量の二酸化炭素が排出されます。このような状況を受けて、環境に優しい再生可能エネルギーへの切り替えが進んでいます。このような中で、十和田風力開発では、惣辺奥瀬風力発電事業を十和田市にて計画しており、市民の方々に、本事業に興味を持っていただきたいとの思いで、『風のおたより』を発行しております。

ここで、皆様の会社の成り立ちや、歩んできた歴史などをお聞かせください。

## 馬喰宿からホテルへ

**下山** うちの130年ほど前から続く旅館業です。十和田市は馬が有名な地域だというのはご存知だと思いますが、うちのホテルは元々は馬喰宿※でした。時代が変わって、近くにあった馬の競り場もなくなり、今はホテル業として、ビジネ

※[ばくろうやど]

主に馬の売買・仲介をする商人(馬喰)が宿泊した宿



上村さん

スの方や観光客には宿泊していただき、地元の皆さんには会議や宴会の場としてもご利用いただいております。

コロナが流行した際は、うちのホテルもすごく打撃を受けまして、宿泊客ゼロの時期もありました。その際、ホテルの隣にコワーキングスペースを併設したカフェの「サンバスタンド」を立ち上げました。経営の多角化を考え、リモートで仕事ができるスペースを作りました。ここは、地域交流の場としても活用しています。

最近、ワークとバケーションを掛け合わせた、ワーケーションという言葉も出てきて、旅をしながら仕事をしようという方々も取り込みたいなという意図もあります。

**上村** 十和田乗馬倶楽部は、父が50歳の時に北海道から馬を5頭買ってきたのがスタートなんですよね。35年ぐらい前かな。父が、馬を活用して地域とどのように連携していこうかを考えながら、障害者乗馬を日本に初めて取り入れたんですね。この地域は昔、南部馬で栄えた南部藩域で、明治期から陸軍の軍馬補充部でも栄えた三本木（十和田市の前身）でした。観光として馬を活用して地域を盛り上げたいと考えた父が、いろんな人たちと連携して取り組んだようです。

そうした中で「女性だけの流鏑馬をやりたい」という話になって白羽の矢が私に立ったようです。25年ほど前です。そんな流れで流鏑馬を始めましたが、歴史的に女人禁制だったものですから、バッシング等が少なからずあり、

随分と考えさせられました。その時には全国各地の流鏑馬を見学したり、南部藩の伝統的な考え方や技術に触れて、これを百年後の子どもたちに伝えたいって思うようになり、スポーツ流鏑馬に特化した形の乗馬倶楽部を運営することにしました。

**司会** お話を伺うと、そこに歴史を感じますね。次に、今まで、観光業に従事されて来られた中で、地域の方の反応などをお聞かせください。

## 観光客に人気の流鏑馬

**上村** 皆さんに感謝されているのかな、どうなんだろうなと思っていますが、お陰様で、女性が流鏑馬を本格的な技術で後世に伝えていくというところを認めていただき、内閣総理大臣賞とか、スポーツ文化ツーリズムアワードで賞をいただきました。私の中ではもっともっと地域に貢献していくようなきっかけづくりをしたい思いがあります。

全国各地に馬の関係で公演に行くんですが、この地元のすごい財産だと思って思うのは、馬に乗ったことがある子どもたちが結構いるということです。このことは、当市には駒っころ

ンドがあり、また官庁街通りに馬の銅像があったりと、身近な所に馬がいるからだと思います。こういった環境を大切にしていきたいなと思っています。

**下山** 上村さんは4月に桜流鏑馬をされてますよね。桜流鏑馬で来られる方がかなり多くて、今、練習に来ている遠方の方も、うちにずっと泊まっていちゃいます。桜流鏑馬は観光客に人気があって、今では世界大会をやられて、すごいなと思います。

**上村** そう言っていただくと、嬉しくて汗がでます。私たちも流鏑馬をやりたいという話を海外から聞いた時に考えたのは、流鏑馬を武道ツーリズムやスポーツツーリズムとして結びつけると、馬の歴史に関する背景やストーリーが求められるので、下山さんのホテルが昔、馬喰宿だったというのはすごく響くらしいですよ。

**下山** 特にヨーロッパやアメリカの方々は、そのバックグラウンドが重要な方が多い

という話をよく聞くので、そういうところがうまくかみ合ってくれば、嬉しいですね。

**上村** 下山さんのところに行って「昔は馬喰宿でしたよ」、「すぐ近くに馬の競り場があったんですよ」という話をし、高森山の称徳館に連れてって歴史を教えて流鏑馬をすると、外人さん達も流鏑馬との向き合い方が全然変わるので、すごく助かっています。

**司会** ありがとうございます。そういった歴史や奥入瀬溪流などの自然が十和田市の魅力となっているわけですね。ここで、風力発電事業の計画や観光業との共生について事業者からお話ください。

## 風車と観光業との共生 目指す

**事業者** 私たちは惣辺奥瀬地域にて計画を進めておりますが、十和田湖や奥入瀬溪流に近い所に位置しており、特に観光業に配慮しなければいけないと考えております。中でも十和田湖や奥入瀬溪流を眺める代表的なビュースポットからは、十和田湖や奥入瀬溪流の眺めを阻害しないよう、配慮した計画としております。

また、観光業との共生という観点では、この近くの六ヶ所村や、愛知県の方で弊社グループの風車を眺めながらマラソン大会などのイベン





トが開催されています。こうした観点からも、私達は十和田市でも風車を観光資源の一つとして活用されることを期待しています。

**司会** 次に、新たな観光資源の発掘と地域活性化について考えていることをお伺い致します。

## ホテルでアート企画展を

**下山** まだ全然形にはなってないけど、挑戦していきたいなということがあります。今、うちのホテルはビジネス客への依存率が高い状態ですが、将来的には社会の変化によってビジネス客は減っていくでしょう。十和田湖・溪流への観光客を取り込みたいところですが、うちのホテルは十和田市街地に位置しているので、その辺は難しい課題ですね。そこで現代美術館との連携によって、芸術に興味のある観光客を取り入れていきたいなとは思っています。例えば、新進気鋭の若手アーティストの企画展をホテルで定期的開催すれば、きっと面白いんじゃないでしょうか。

## 「藩」エリアの活動で活路を

**上村** 日本全体で人口が減っている少子化問題を考えると、今の時点は明治時代と人口は一緒なんじゃないかなと思っており、その先は、江戸時代レベルになるんじゃないかと考えていま

す。十和田市として生き残れるかどうかを考えた時は、これからは地域を「藩」単位で捉えた交流や活動が必要だと感じています。流鏝馬をやっているからこそ、南部藩というエリアの中で活動していくと、人の動きも行ったり来たりしやすく、交流人口も増えてくると感じています。私たちは、流鏝馬という歴史を次世代につなげる子どもたちを育てていきたいと強く思っていて、十和田市として、南部藩としてのストーリーが百年先までも伝わっていく観光需要が大切な軸になると思っています。

先日、カナダのバンフにて馬のイベントがあり、参加してきました。その中で、再生可能エネルギー設備に囲まれた道路を抜けて国立公園に行くルートがあるのを見て、自然を大切にするバンフの考え方が面白いと思いました。

十和田市でも太陽光パネルや風力発電ができるだけ景観を損ねないように、自然の美しさを守りながら街中と十和田湖をつなぐサステナブルな観光事業として、世界に伝えられるものになるのではと感じています。

**司会** 本日は貴重なお話をありがとうございました。十和田市の観光業の課題等を確認し、併せて風力発電事業との共生の可能性を話題といたしました。『風のおたより』を読んでいたいただいた十和田市の皆様が、観光業の現状や風力発電事業との共生について考えていただく機会となれば幸いです。

### (仮称) 惣辺奥瀬風力発電事業概要

#### ①計画概要

風力発電所総出力：最大 130,200kW

風力発電機出力：4,200kW 予定

設置予定基数：33 基

#### ②事業経緯

2018年：計画開始(事前調査および風況調査準備)

2019年：風況観測開始(風況観測塔設置)

2020年：配慮書縦覧(環境影響評価法に基づく)

2021年：方法書縦覧・住民説明会実施(環境影響評価法に基づく)

2022年：第1回中間報告会を開催・現況調査(動植物・景観等)実施

2023年：第2回中間報告会を開催

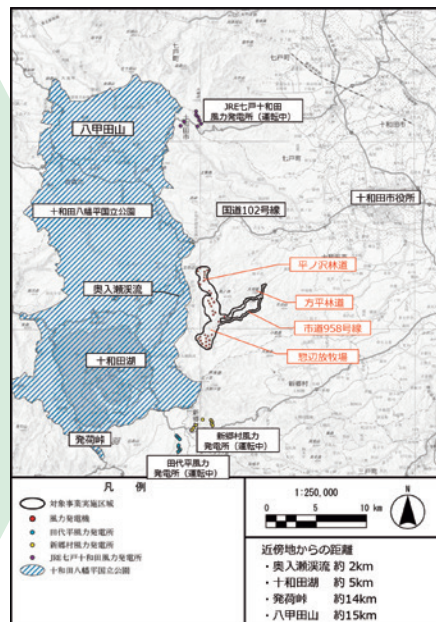
現況調査を踏まえ周辺環境への影響を予測評価

2024年：第3回中間報告会を開催・風況観測完了

※第3回中間報告会(2024.2)時点の計画です。

現在、県共生条例等を踏まえて事業計画を多角的(周辺環境への配慮等)に検討しております。

位置図



発行 発行 発行

十和田風力開発株式会社

〒034-0012 青森県十和田市東一番町4-37

TEL 0176-58-0090

HP (お問い合わせ先): <https://towadawindpower.jp/>



※ご意見や感想につきましては、HPのお問い合わせまでお願いいたします。なお、お問い合わせフォームへの正確な情報にご協力願います。